第３学年　道徳学習指導案

１　主　題　名　　Ｂ－（９）友情・信頼　　友達のよさ

２　教　材　名　　たまちゃん、大好き

（出典「明るいこころで」東京書籍、まるこちゃんシリーズ絵本４　集英社）

３　主題設定の理由

(1) 子どもの姿について

　　本学級の子どもたちは、男子１５人、女子１３人とほぼ半々の人数となっている。小学校３年生の時期では、男女としての性別の違いの意識はそれほど強くなく、男女関係なく話し合ったり、休み時間に外へ遊びに出かけたりすることもある。授業中に近くの友達が筆箱を落とすと、２、３人の子がさっと動き、拾うことができる。また、係の仕事で手が足りないと、「手伝うよ」と言って、みんなで協力をすることができるクラスである。一方で、休み時間に遊ぶ約束をしていたのにも関わらず、違う友達と遊んでしまったり、授業後に遊ぶ約束をして待っていても友達が来なかったという経験をしたりしたという話をよく相談してくることがある。約束をした相手や待っている相手の立場になって考えることがまだできていない。

　(2) ねらいとする価値について

　　子どもたちの生活は、たくさんの人々に支えられている。楽しく生活を送るために、友達の存在は非常に大きなものである。助け合うだけではなく、けんかもするが、近くにいる友達の存在は、とても心強いものである。その存在の大切さに気づき、よりよい人間関係を築いてほしい。友達との関わりを通して、相手を信頼し、友情を育んでいくことは、人間として生きていくことの基本である。そのような存在である友達を常に大切にしながら関わっていく態度を養いたい。

(3) 教材について

　　本資料は、子どもたちの大好きなアニメの一つ「ちびまる子ちゃん」の物語である。たまえとまる子は、お互いに２０年後の相手に手紙を書き、タイムカプセルに入れて埋めることにした。しかし、約束の日、たまえが来ないので、まる子はタイムカプセルを捨ててしまう。次の日、それぞれの気持ちを考えた２人が土手で出会い、お互いに謝り、仲直りをして、再びタイムカプセルを作ることになる。約束を守らないたまえのことが許せないまる子が、自分も同じような立場になって初めてたまえの気持ちを理解し、お互いに理解し合うことで、友情を深める話である。授業では、まる子とたまえのそれぞれの考えを追う。同学年である３年生にとって、まる子やたまえの気持ちに共感がしやすく、それぞれの立場にたったときの気持ちを考えることができるだろう。授業の終末では、すれ違いで起きた誤解を解消した２人がタイムカプセルに入れる手紙の内容を考えさせる場面を設定する。手紙の内容を想像して実際に書く活動を通して、相手のことを考え、友達を大切にしたいという思いが高まるだろう。

４　子どもの心を揺さぶるための手だて

　・登場人物に共感できるためのイラストや言葉の掲示

　　　場面を想像し、登場人物に共感できるように、人物のイラストや重要な言葉の提示をする。

　・登場人物の立場になって考える手紙

　　　登場人物の心情をより深く考えられるように、まる子とたまえのそれぞれの立場になったときを想定し、手紙に気持ちを書く活動を取り入れる。それにより、友情について、多面的・多角的に考えることができる。

５　本時の学習

(1) 目　標

登場人物のまる子とたまえがお互いのことを思う場面を通して、相手の立場にたって考　えることの大切さに気づくことができる。

(2) 学習過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習段階 | 児童の活動 | 教師の手だて |
| 導　入  （５分）  展　開  （30分）    終　末  （10分） | １　友達との約束での経験談を発表する  ・友達と学校のあとに遊ぶ約束をして、公園で待っていたけど来なかったときがあるよ。  ・遊ぶ約束をしたけど、家の急な用事で約束を破っちゃったことがあるよ。  ２　「たまちゃん、大好き」の話を聞き、いつまで待ってもたまえが神社に来なかったときのまる子の気持ちを話し合う  ・たまちゃん忘れているのかな。  ・約束したはずなのに。  ・たまちゃんなんてもうしらない。  ３　まる子が家で留守番をしているときに、はっとしたのはどうしてか話し合う  ・たまちゃんもお母さんに留守番を頼まれていたんだ。  ・約束を忘れていたわけでなく、行きたいけど行けなかったんだ。  ・たまちゃんに悪いことしちゃった。謝らなきゃ。  まる子とたまえはタイムカプセルの手紙にどんなことを書いたのだろうか  ４　お互いの誤解が解けたあとに、どんな言葉を手紙に書くか考える  たまちゃんへ  ・来なかった理由を聞かずに怒ってごめんね。  ・カプセル投げちゃってごめんね。  ・たまちゃん大好きだよ。これからもずっと友達でいてね。　　　　　　　　　　　　　まる子より  まるちゃんへ  ・神社に行かなくてごめんね。  ・私のことを許してくれてありがとう。  ・まるちゃん大好きだよ。これからもずっと友達でいてね。　　　　　　　　　　　　　たまえより  ５　自分の考えた手紙を発表する  ・お互いに許し合うために、「ごめんね」をお互いの手紙に書きました。  ・けんかをしても仲良しでいたいので、「大好き」という言葉を書きました。 | ○友達関係について考えるきっかけとして、児童自身の体験をお互いに共有する場面を設定する。  ○まる子の気持ちやたまえの気持ちに共感できるように、待っているときの場面の挿絵を黒板に貼る。  ○まる子とたまえの気持ちを対比させ、多面的に考えられるように、黒板の左側にまる子の気持ち、右側にたまえの気持ちと分けて板書する。  ○まる子とたまえの手紙の言葉が比較しやすいように、黒板の中央にそれぞれの意見を分けて板書する。  ○まる子とたまえに自分を重ね、投影的に考えられるように、「自分だったらどう考えるか」と補助発問し、多面的・多角的に考える場面を設定する。  ○お互いの気持ちを理解するために、手紙の言葉を選んだ理由まで発表するように助言する。  ○時間があれば、自分の体験と重ねながら、振り返りを書く時間をとる。 |

(3) 評　価

　　　相手の立場を考え、友達を大切にしようとする気持ちが高まったか。（発言や手紙の内容）